

ふれあいの里 グループホームすつつ
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192100048		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームすつつ		
所在地	北海道寿都郡寿都町字新栄町166番地8		
自己評価作成日	平成26年2月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0192100048-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとり一人ご自分のペースで、ゆっくり生活して頂き、個々の持っている力が発揮できるよう日々支援しています。 医療連携先の、訪問診療、訪問看護を受け入居者様の健康管理に力を入れ、相談助言を頂き連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームすつつ」は、寿都湾が広がる見晴らしの良い高台に立地している。2階建ての建物全体が町の管理で、地域密着型センター「ふれあ～寿」の名称で地域住民の交流の場になっており、1階の共生ホールの一角に法人の小規模多機能型事業所と併設している。同フロアーに町関連の医療・福祉の事業所があり、役場職員や各専門職とのネットワークも充実している。共生ホールで行われる催しに利用者も参加して住民と交流している。またホールに遊具なども準備しており、遊びに来ている子供とも日常的に会話を交わしている。開設2年を迎えて法人のバックアップの下で管理者と職員は理念を意識しながら、利用者の自立面を支え熱心に日々のケアを実践している。管理者は本部の担当者一体になって職員の育成にも力を注いでいる。職員は法人研修のほか、町のセミナーに参加し、知識を学んでいる。介護計画作成の前後にカンファレンスを持ち、計画作成担当者は、職員の提案を受けながら目標に向かって統一した介護が実行できるように取り組んでいる。職員は常に利用者と会話を交わしながら、その人らしい生活が出来るように、温かな姿勢で接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス、申し送りなどで、理念に基づいたケアが提供出来るよう確認をしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関に掲示している。カンファレンスなどで、利用者の出来る事、出来ない事を見極めてケアを行っているか理念に触れて確認している。職員は理念の内容を意識して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り見学や、町内の敬老会に参加したり、ふれあ～寿祭りを他事業所と合同で開催し知り合いの方、地域住民の方と交流を図れるように支援している。	利用者は町内会行事に参加するほか、町主催の、共生ホールで行っている「クリスマスコンサート」に参加し、小・中・高校生の合唱や吹奏楽等を住民と共に聴いて楽しんでいる。またホールに遊びに来る子供たちと会話を楽しむ機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町老人クラブの出前講座等に参加させて頂き、事業所の紹介、役割等お話をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みの報告等、意見や要望を貰いサービス向上に繋げていく努力をしています。参加者が少なく行事と合わせて開催し、ご家族の参加を増やして行きたい。	併設の法人事業所と合同で2か月毎に会議を開催しているが、家族の半数は遠方に住んでいるためグループホームからの参加は少ない。会議では各報告を中心に意見を交換している。議事録は参加した家族のみに送付している。	テーマを設定した年間計画を家族に送り、また各会議案内にもテーマに関する意見を頂くような工夫で、家族の意見が会議に反映されるように期待したい。また全員の家族に議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様や運営等の相談をさせて頂き、サービスの質の向上に努めている。	役場の担当者や地域包括支援センター職員は運営推進会議の委員で、担当者から助言を貰ったり、入居の際に相談している。事業所が町の建物内にあるので、用事のついでに役場職員が立ち寄りこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの内容を再確認定期的に勉強会で取り組んで行きたい。	職員採用時に、マニュアルを基に身体拘束廃止について指導している。法人共通のマニュアルをファイルに綴ってカウンター内に置いているが、あまり活用されていない。利用者に対して上からの目線やプライバシーに触れるような言葉遣いがないよう注意を促している。	マニュアルなどを基に身体拘束に関する勉強会を持ち、その中で年に1回は「禁止の対象となる具体的な行為」の項目について、更に理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に向けて意識を持ち、職員間でも気をつけるよう努めている。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用した方が入居されています。事例を通して学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や質問事項について分かりやすい説明に努めている。契約時だけで分からないことはいつでも質問して頂けるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、ご家族様に状況を伝え、意見・要望を伺いケアに反映させている。	家族の来訪時に、各報告の中で意見を引き出すように問いかけている。薬の変更など必要に応じて電話でも報告している。頂いた意見に随時対応し、内容を「生活記録」に記載して共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、業務の中で、意見、提案を聞いたり、話し合いが出来る場を設け改善に努めている。	参加できない職員の意見や要望は、会議前に用紙に書いてもらっている。会議で意見を出し合い、提案などには素早く対応している。必要に応じて個人面談を行い、ケアなどの悩みがあれば助言し、働きやすい職場を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社代表者は、就業状況を考慮し働きやすい環境の整備に努めています。事業所では休み希望、体調等に配慮した勤務体制に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会は少ないが、町主催のセミナー、研修会等に参加しています。法人で階層別、目的別の研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ連絡会に参加し、居宅介護支援事業所、診療所、包括支援センター職員との事例検討、地域の高齢者等の情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、ご本人様から要望、希望等を聞きケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と話し合いを多く設け、不安なこと要望等伺い信頼関係が築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時に、グループホームの生活の様子を説明し、お話させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりの出来ることを活かし、見守りながら達成感を感じられるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、電話等で生活の様子を伝え、ご家族の思いを伺いながら、毎日のケアに取り入れている。又遠方の方には、外出等の機会を持って頂けるようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ出かけたり、近所の知人、友人の方が来所されており、今までの付き合いが継続されるよう支援している。	近隣の方々や婦人会の仲間だった方が来訪している。共生ホールで地域別に老人クラブのカラオケがあり、その機会に馴染みの方がホームに訪れている。馴染みの店で買い物を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が回り合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方は、席などに配慮し会話を多く持てるよう努めている。又入居者同士行き違いなど関係がこじれないよう職員が間に入りコミュニケーションが取れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時お見舞いに行ったり、遠方のご家族と連絡をとり、相談など受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中で、言葉や表情などから真意を汲み取り、希望、意向を取り入れるようにしている。	入居前の情報を基にフェイスシートを作成し、生活歴や趣味などを把握している。介護計画の見直し時にアセスメント表を作り直し、やりたい事や意向を聞き出して介護計画に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に、生活歴、日々の過ごし方など伺っている。又本人との会話の中から情報が得られるように職員間で情報を共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送り、カンファレンスを通じて把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の業務の中で気が付いたことなど、プランに反映できるように取り組んでいる。状態に変化があった時は必要に応じて都度見直しをかけている。	計画作成担当者はアセスメント記録とモニタリング評価を行い、3～6か月期間で介護計画を見直している。計画書作成の前後にカンファレンスを持ち、職員の提案を受けたり、ケア内容の統一などを図っている。利用者の言葉を「生活記録」に記載し計画に連動した記録の工夫を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、心身の状態など、本人の言葉を交え記入し職員間で情報の共有に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況により、柔軟なサービスや支援に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、中学生、高校生の方が高齢者住宅、グループホーム、小規模多機能ホームの方を対象にクリスマスコンサートを開催してくれたり、地域の方の支援も多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は、ご家族様同意で実施しています。他受診は、家族様と連絡を取り職員付き添いで対応を行っている。	全員が町の診療所を受診しており、協力医療機関になっている。月2回の往診のほか、必要な時は職員が通院支援をしている。協力医である診療所に入院設備もあり、連携を取りながら健康を管理している。受診経過表で内容を共有している。	

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や経過を報告し健康管理を行って頂いています。必要時、連絡相談できる体制を整え早めの受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携先の診療所と情報交換を密に行い、早期退院できるよう取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針として説明し文書に同意を得ています。	利用開始時に、重度化して医療行為が継続する場合は、主治医と関係者で話し合う方針を説明して同意を得ている。事業所での対応を見極めながら主治医と話し合い、可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急対応の勉強会等取り組みが必要と考えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定の実施避難訓練を、消防署も参加し併設の他事業所と実施。	建物全体で避難訓練を実施しているが、訓練に近隣住民の参加は得られていない。建物は元の道立病院で耐火建築物になっているが、火災以外の災害は今後の課題になっている。各災害時の備蓄品は本社と早急に検討する意向である。	地域との役割分担を明確にし、夜間を想定した避難訓練に近隣住民の参加を期待したい。また地震などの災害を想定し、職員間で避難や各場面での安全面について確認することを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人に合わせた声掛けや対応をし、自尊心を傷つけない配慮に努めている。	新人研修で、上から目線にならないような言葉かけや対応を指導している。申し送りは、個人が特定できないように頭文字を使い小声で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた声掛けを行い、ご本人が納得した上で自己決定できるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースで過ごして頂けるよう、希望に沿った対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で馴染みの美容室でパーマや毛染めをしたり、外出時、入浴前職員と一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えている。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の得意なこと、出来ることを一緒に配膳、片付けなど行っている。また職員と一緒におやつ作りの機会を設けている。	本社の献立を基に、甘味や塩分に配慮して食材がわかるような調理法にしている。職員手作りの誕生日ケーキやクリスマスに外食を楽しんでいる。利用者と一緒に畑の作物を収穫して味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立メニューで提供。個別に一日の摂取量を把握し食事低下がある場合は、医師に相談も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守りを行い、不足な部分の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導でトイレでの排泄を行っている。	利用者の半数程が自立しており、布の下着で過ごしている。昼夜ともトイレでの排泄を基本に、排泄間隔を把握して声かけすることで排泄面が改善した事例もある。トイレへの声かけも、小声で他の方に気づかれないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い水分や食事量のチェックを行っている。排便困難な場合は、医師に相談し対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の固定はせず間隔のあいている方から入浴できるように対応している。また一人ひとりに合わせ無理せず時間を置いて、声掛けの工夫をしている。	日曜日以外の午後の時間帯で、同姓介助を基本に週2回の入浴を支援している。入浴順に配慮したり、入浴剤などを利用しながら楽しく入浴できるように工夫している。入浴拒否がある時は、往診などの話をしながら午前中に入浴に誘うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、温かい飲み物を飲んで頂いたり、お話を聞いたり支援している。又昼寝を希望される方には適度な休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は、間違いをなくす為一人で行こなっている。薬の副作用等気をつけることは、都度職員に伝え周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことなどひとり一人力を発揮してもらえるよう、出来そうなことをお願いし、役割りとして続けられるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方は、月数回馴染みのお店に買い物に出掛けている。天気の良い日、海、畑の様子を見ながら散歩したり、行事でドライブや外食を楽しんでいる。	冬季以外の天気の良い日は、車いすの利用者も一緒に前庭を散歩したり、畑の作物を収穫している。数人でドライブや外食に出かけたり、馴染みのお店に個別で買い物に出かけている。季節に応じてお花見や紅葉見学、道の駅などにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より承諾を頂き、金銭はホームで立替払の対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、親戚の方からの電話取次ぎは行っていますが、ご本人からご家族へは職員が取り次ぎ対応を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内が広く、音が響きやすい為、不快にならないよう気を付けている。季節感を感じて頂ける飾り付けや、行事の写真を貼り楽しんで頂いている。	綺麗に清掃された清潔感がある共用空間で、職員ステーションを中心に、居間と食堂が独立し、広々とした回廊式になっている。中央の柱を木に見立て、花や葉の色を変えて四季を表現するなど工夫した温もりのある装飾になっている。利用者が自由に楽しめるように週刊誌や雑誌なども備えるなど、家庭的な環境作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	西日が入る場所に、椅子等置き、日向ぼっこなど自由に過ごして頂ける空間作りをしている。又入居者同士過ごしやすくなるよう席替えの工夫もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持参するようお願いし、居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	棚で仕切られたクローゼットや室内に半畳程の奥まったスペースがあり、タンスや仏壇、使い慣れた家具などを持ち込み使いやすく配置している。カレンダーや写真、小物類などを飾り、各利用者が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋、トイレの場所が分かりやすいように、目印をつけたり、安全に移動できるよう整理整頓を心がけている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームすつつ

作成日：平成 26年 3月 20日

市町村受理日：平成 26年 3月 25日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	定期的に身体拘束の内部勉強会を開催する。	定期的に、勉強会を開き、介護の質向上が図れるよう取り組む。	小規模多機能ホームと合同で、計画的に期間を設定し実施する。	1年
2	4	運営推進会議にご家族様の参加を頂いたり、ご家族様の意見が会議に反映できるようにする。	参加できないご家族様に事前にテーマに関する意見を頂く。	運営推進会議のテーマを設定した計画をご家族様に送り、意見を頂いたり、議事録を送付し会議に意見を反映出来るようにする。	1年
3	35	避難訓練に近隣住民の協力と参加が得られるようにする。火災以外の災害に必要な備蓄品を本社と検討する。	避難訓練に近隣住民の協力が得られる関係作りを構築する。災害備蓄品を速やかに整備する。	運営推進会議の場を通じ近隣の方の協力、参加をお願いし役割等の体制作りを行う。本社と災害備蓄品を整備する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。